

同種施設比較分析表(子どもセンター)

1 各施設の情報

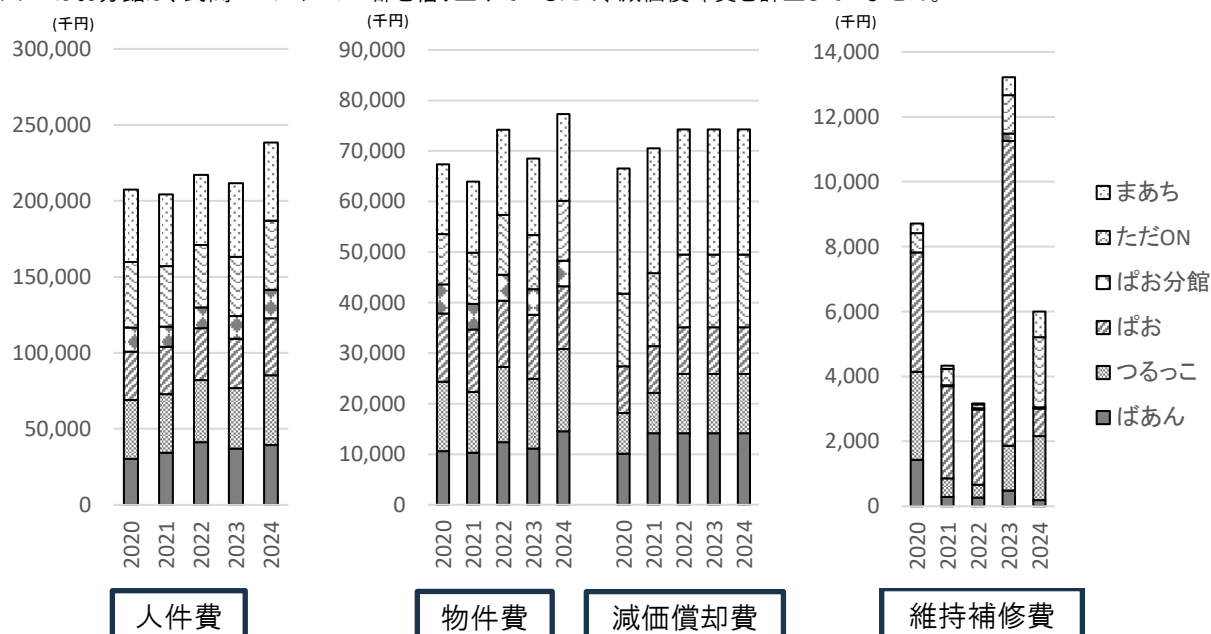
		ばあん	つるっこ	ばお	ばお分館※1	ただON	まあち
基本情報	該当ページ	-	-	-	-	-	-
	建設年月日	1999年3月24日	2005年2月1日	2009年3月27日	-	2014年1月26日	2016年4月30日
	有形固定資産減価償却率	42.4%	39.6%	30.6%	-	38.8%	25.8%

行政費用(千円)	人件費	39,254	45,960	37,530	18,748	45,497	51,488
	物件費	14,509	16,302	12,441	5,029	11,884	17,147
	うち委託料	6,841	10,496	5,720	1,837	6,365	8,340
	うち光熱水費	3,429	4,260	2,524	808	3,667	6,232
	維持補修費	192	1,972	842	44	2,164	781
	補助費等	449	206	55	20	169	235
	減価償却費	14,120	11,733	9,236		14,428	24,731
	賞与・退職手当引当金繰入額	4,322	5,533	2,898	3,770	6,219	3,846
	行政費用合計	72,846	81,706	63,002	27,611	80,361	98,228

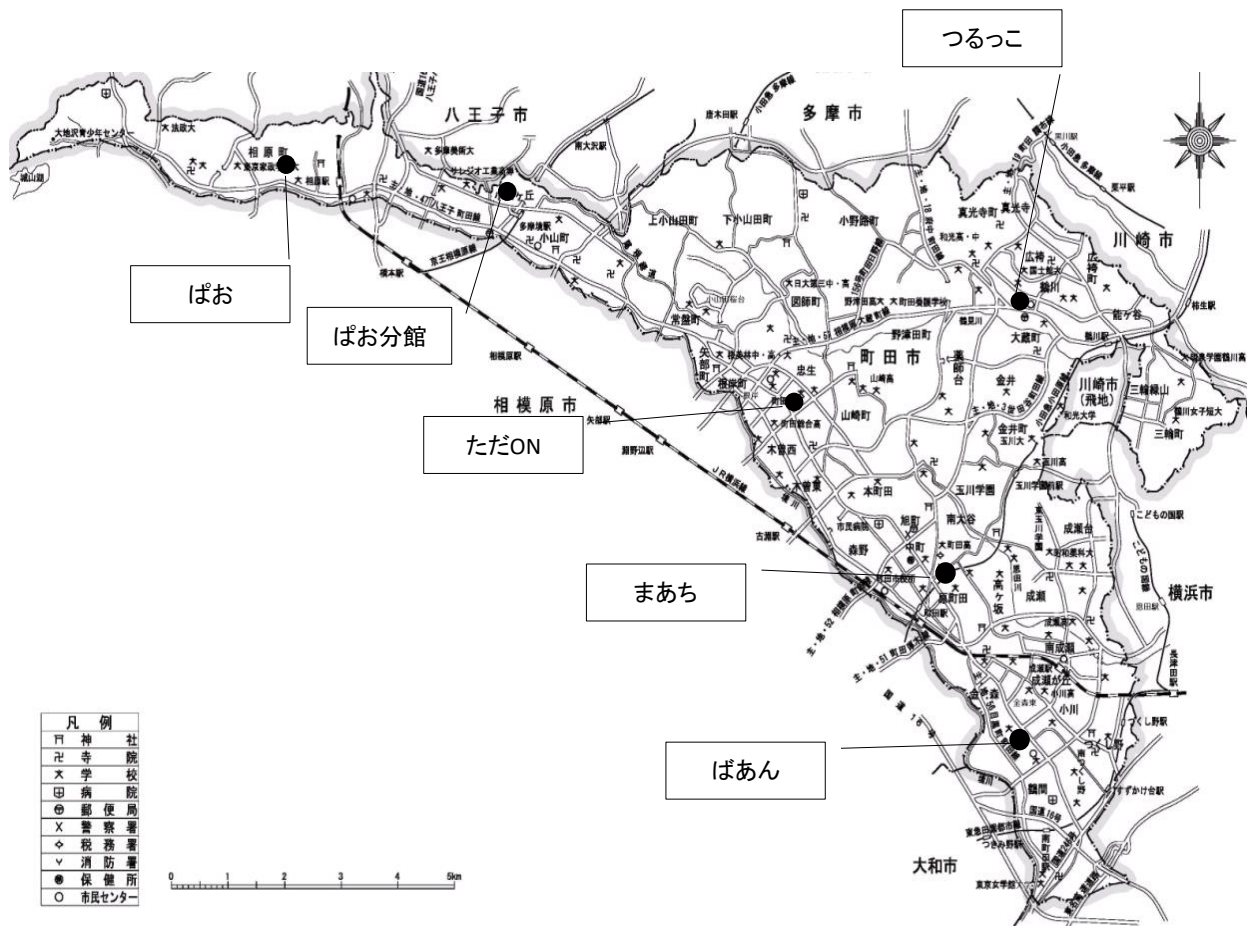
有形固定資産	建物取得価格	657,443	432,751	482,682		409,114	766,674
	建物減価償却累計額	△ 278,601	△ 171,344	△ 147,776		△ 158,705	△ 197,703
	本年度末残高	378,842	261,407	334,906		250,409	568,971

単位あたりコスト分析	延床面積(㎡)	1,339	1,499	1,179	405	1,564	2,018
	1㎡あたりコスト(円)	54,403	54,507	53,437	68,175	51,382	48,676
	利用者数(人)	58,892	65,872	48,268	22,561	70,929	119,074
	利用者1人あたりコスト(円)	1,237	1,240	1,305	1,224	1,133	825
	開館日数(日)	291	291	291	290	289	291
	開館1日あたりコスト(円)	250,330	280,777	216,502	95,210	278,066	337,553

※1 ばお分館は、民間マンションの一部を借り上げているため、減価償却費を計上していません。



2 施設配置図



3 2023年度決算で掲げた施設マネジメント改善のための取り組み

短期的な取り組み(1～2年)	中長期的な取り組み(3～5年)
◆安全安心に利用でき、高い満足を得られる居場所の運営を行います。 ◆利用者アンケートや地域のニーズを踏まえ、関係団体との連携事業を実施するとともに、地域団体への支援を行います。 ◆子どもの意見を事業や施設運営に取り入れ、子どもの参画を推進していきます。 ◆利用者への影響が最小限となるよう、機器故障時は迅速に対応します。	◆職員の資質向上に努めることで、子どもとその保護者のための地域拠点として、安心して利用できる環境づくりを進めます。 ◆「子どもにやさしいまち」実現のため、事業や施設運営、地域支援等において、さらなる子どもの参画を推進します。 ◆施設の老朽化に伴い、計画的な修繕を実施します。

4 2024年度の取り組み状況

◆地域団体と連携し、『ばお』の「防災体験フェスタ」や『ただON』の「タッチラグビー」など新たに20のプログラムを実施しました。また、放課後子ども教室「まちとも」運営協議会を対象に地域ごとで情報交換会やスタッフ研修を実施し、運営の支援を行いました。 ◆子どもの意見を反映し、子どもたちが主体で、職員がサポートする子どもの参画事業として、『まあち』の「クリスマスフェスイブ×10」、『ばあん』の「バスケットボール大会」などを実施しました。 ◆利用者が安全安心に利用できるよう施設修繕として、『ただON』ではプレイルームの天井修繕、『つるっこ』ではPAS用高圧端末処理材の更新などを行いました。 ◆2023年度利用者満足度調査でいただいた「乳幼児向け遊具の充実」、「イベントの土日実施」などの利用者の意見を反映させ、施設運営や事業実施の充実を図りました。2024年度利用者満足度は、小学生から18歳では98.5%以上、保護者では100%と高い結果となりました。

5 事業の成果の年次推移

各施設利用者数

(単位:人)

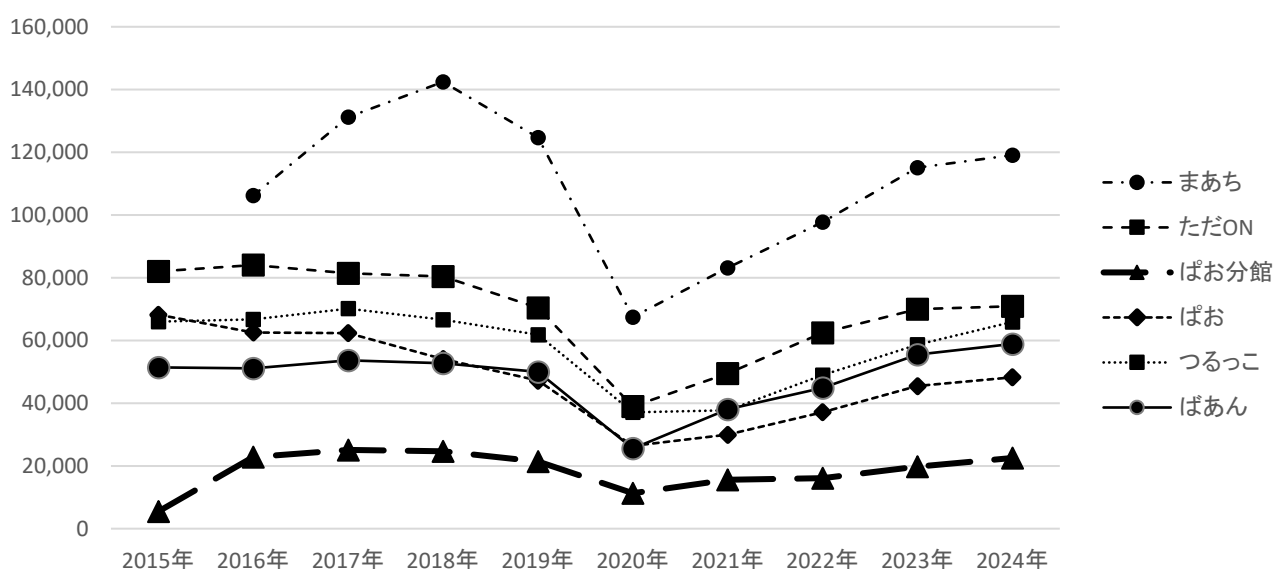
施設名称	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	計
ばあん	51,411	51,139	53,654	52,703	50,029	25,550	38,034	44,843	55,508	58,892	481,763
つるっこ	65,985	66,741	70,141	66,665	61,857	37,087	37,778	48,962	58,665	65,872	579,753
ばお	68,210	62,543	62,337	54,115	47,192	26,399	29,934	37,144	45,467	48,268	481,609
ばお分館	5,486	22,845	25,101	24,628	21,365	11,277	15,584	16,093	19,794	22,561	184,734
ただON	82,062	84,037	81,418	80,387	70,443	38,971	49,485	62,432	70,011	70,929	690,175
まあち		106,252	131,244	142,424	124,714	67,485	83,126	97,748	115,099	119,074	987,166
計	273,154	287,305	423,895	420,922	375,600	206,769	253,941	307,222	364,544	385,596	3,405,200

対前年度比率

(単位:%)

施設名称	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
ばあん	-	99.5%	104.9%	98.2%	94.9%	51.1%	148.9%	117.9%	123.8%	106.1%
つるっこ	-	101.1%	105.1%	95.0%	92.8%	60.0%	101.9%	129.6%	119.8%	112.3%
ばお	-	91.7%	99.7%	86.8%	87.2%	55.9%	113.4%	124.1%	122.4%	106.2%
ばお分館	-	416.4%	109.9%	98.1%	86.8%	52.8%	138.2%	103.3%	123.0%	114.0%
ただON	-	102.4%	96.9%	98.7%	87.6%	55.3%	127.0%	126.2%	112.1%	101.3%
まあち	-	-	123.5%	108.5%	87.6%	54.1%	123.2%	117.6%	117.8%	103.5%

(人)



6 事業の成果の年次推移の分析

①推移の状況と要因

◆2019年度末から新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、その後の利用者数は増加傾向です。2024年度の子どもセンター全体の利用者数は、2023年度と比較して21,052人(+5.8%)増加しました。特に利用者数の対前年度比が増加した『つるっこ』では、土日に乳幼児と保護者向けの事業を増やしたことなどにより、乳幼児の利用者数が直近10年間で最も多くなりました。

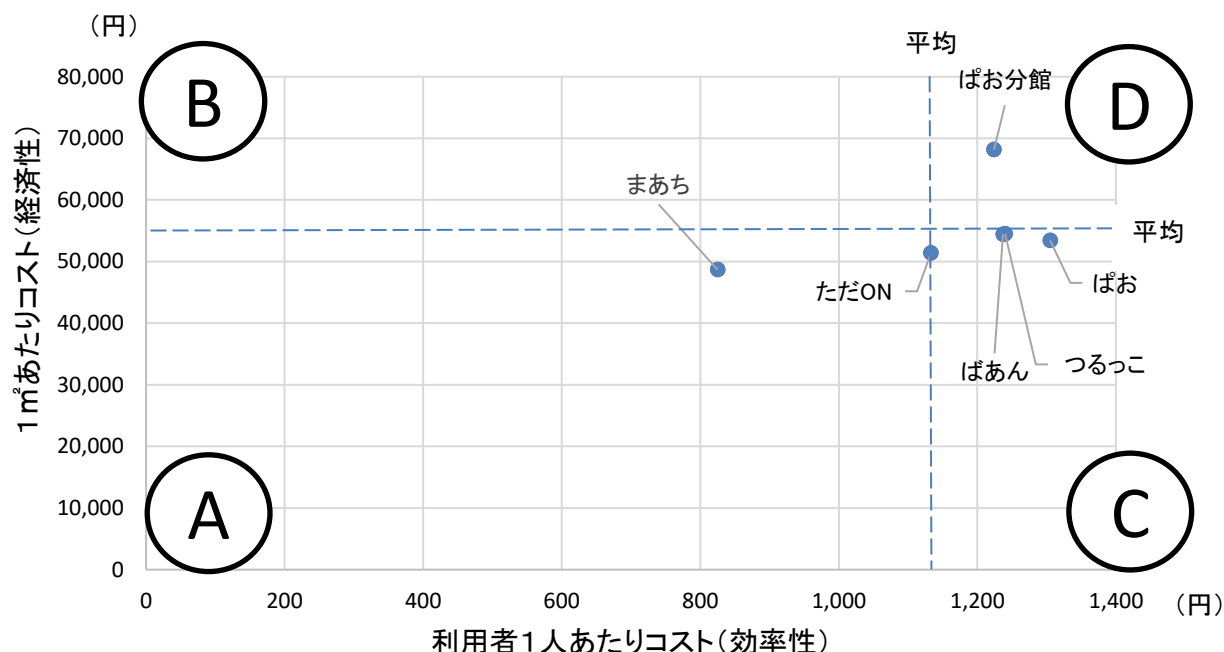
◆『まあち』は、2024年度の中高生利用者が2023年度に比べて7,419人(+30.3%)増加しました。これは、中高生による参画事業が活発に行われたことや、子ども家庭庁や内閣府、近隣自治体からの視察により、中高生が活躍できる子どもたちの居場所として広く周知されたことなどが要因です。

②①を踏まえた今後の取り組み

◆事業や施設運営に子どもの意見を反映することで、子どもの参画を推進していきます。

◆利用者満足度調査を実施するなど、利用者のニーズを反映した施設運営を実施していきます。

7 効率性・経済性を軸にした分析グラフ



8 分析欄

①縦軸(経済性)の分析

◆1㎡あたりコストの平均は55,097円です。2023年度に大きな修繕を行った『ばお』を除く、子どもセンター及び『ばお分館』において、1㎡あたりコストの平均は上昇しました。これは、人件費や光熱水費の上昇が主な要因です。

◆『ばお分館』は、最も延べ床面積が狭く、また民間マンションのフロアを借り上げて運営しています。そのため1㎡あたりコストが最も高くなりました。

②横軸(効率性)の分析

◆利用者1人あたりコストの平均は1,161円です。2023年度と比較してすべての施設で利用者数は増加しましたが、行政費用の上昇から、1人あたりコストの平均は上昇しました。

◆利用者の増加に向けて、乳幼児と保護者向け事業の土日開催の増加(『つるっこ』)や、中高生の参画事業の活発な実施(『まあち』)、地域連携事業の充実(『ただON』)、多様なスポーツ機会の充実(『ばお』)などを実施しました。

9 分析を踏まえた事業の課題

- ◆利用者数が増加傾向の中、引き続き、高い満足を得られる居場所を運営していく必要があります。
- ◆建設から10年以上経過した施設が多く、施設の老朽化や機器設備の故障に適切に対応し、安全安心に利用できるように施設を維持管理していく必要があります。
- ◆地域における子どもの居場所の充実を図るため、地域団体と連携していく必要があります。
- ◆事業や施設運営、地域支援等において、子どもの参画を推進していくことが求められています。

10 施設マネジメント改善のための今後の取り組み

短期的な取り組み(1～2年)	中長期的な取り組み(3～5年)
◆安全安心に利用でき、高い満足を得られる居場所の運営を行います。 ◆利用者アンケートや地域のニーズを踏まえ、関係団体との連携事業を実施するとともに、地域団体への支援を行います。 ◆子どもの意見を事業や施設運営に取り入れ、子どもの参画を推進していきます。 ◆利用者への影響が最小限となるよう、機器設備の故障時は迅速に対応します。	◆職員の資質向上に努めることで、子どもとその保護者のための地域拠点として、安心して利用できる環境づくりを進めます。 ◆「子どもにやさしいまち」実現のため、事業や施設運営、地域支援等において、さらなる子どもの参画を推進します。 ◆施設の老朽化に伴い、計画的な修繕を実施します。

同種施設比較分析表(子どもクラブ)

1 各施設の情報

		玉川学園※1	南大谷※1	木曽	小山	南町田※2	三輪	小山田
基本情報	該当ページ	-	-	-	-	-	-	-
	建設年月日	-	-	2018年1月5日	2019年12月21日	2019年11月13日	2020年6月8日	2023年7月15日
	有形固定資産減価償却率	-	-	31.9%	21.6%	-	23.8%	4.8%

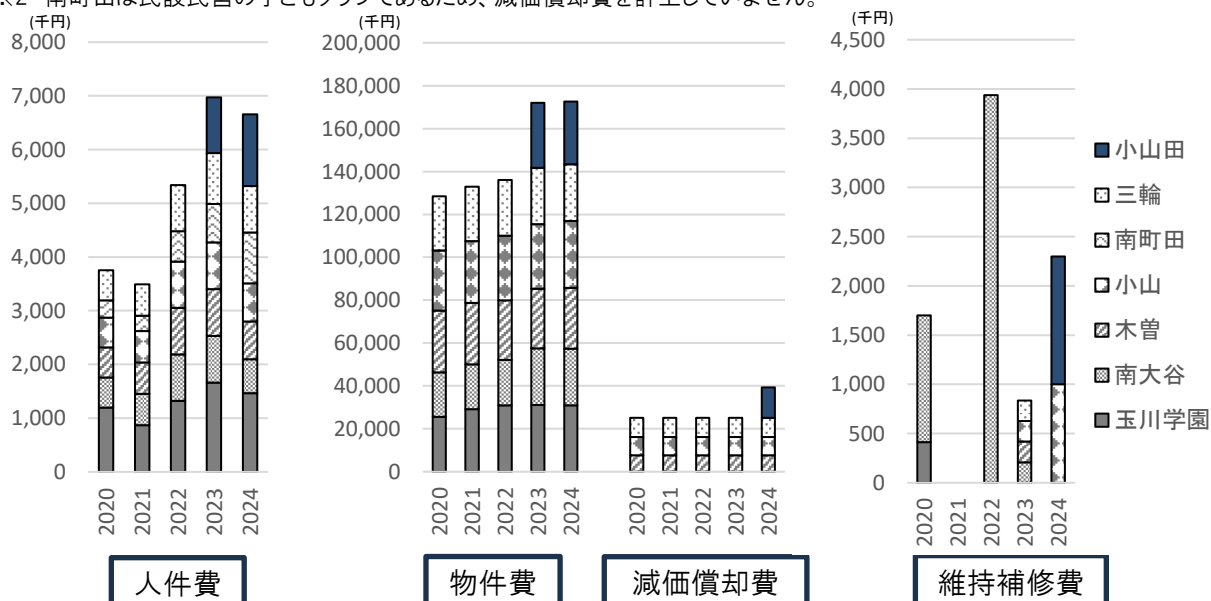
行政費用(千円)	人件費	1,463	631	708	708	948	861	1,336
	物件費	30,982	26,423	28,280	31,314	0	26,298	29,261
	うち委託料	30,781	26,423	28,280	31,314	0	26,298	29,261
	うち光熱水費	201	0	0	0	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	1,001	0	0	1,298
	補助費等	0	0	0	0	38,730	0	0
	減価償却費			7,715	8,461		8,973	14,147
	賞与・退職手当引当金繰入額	140	60	68	68	341	82	334
	行政費用合計	32,585	27,114	36,771	41,552	40,019	36,214	46,376

有形固定資産	建物取得価格			169,144	195,512		188,813	293,056
	建物減価償却累計額			△ 54,007	△ 42,304		△ 44,863	△ 14,147
	本年度末残高			115,137	153,208		143,950	278,909

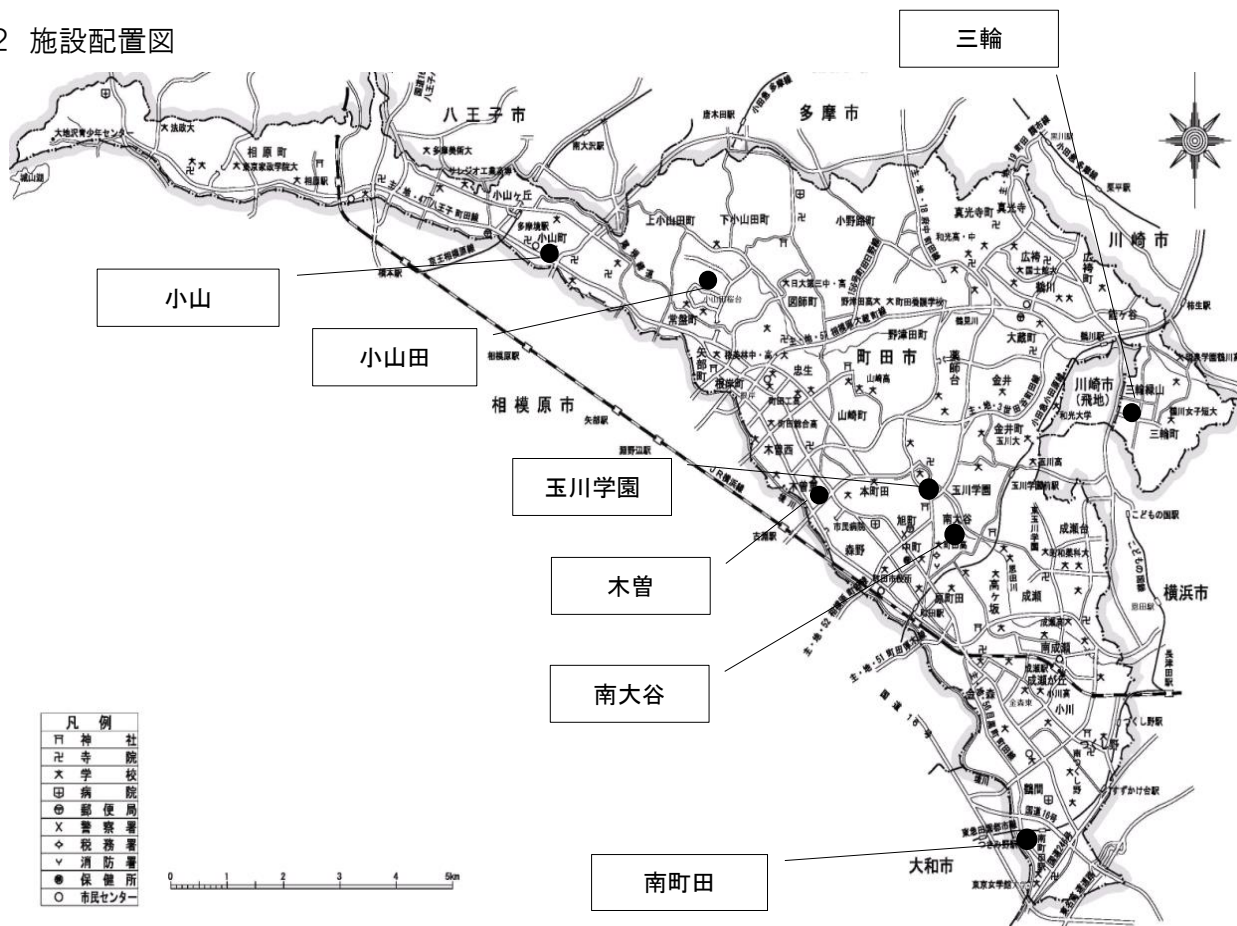
単位あたりコスト分析	延床面積(㎡)	439	360	472	469	441	484	483
	1㎡あたりコスト(円)	74,226	75,317	77,905	88,597	90,746	74,822	96,017
	利用者数(人)	37,512	24,215	23,156	24,062	77,054	27,517	25,409
	利用者1人あたりコスト(円)	869	1,120	1,588	1,727	519	1,316	1,825
	開館日数(日)	289	289	289	289	288	289	289
	開館1日あたりコスト(円)	112,751	93,820	127,235	143,779	138,955	125,308	160,471

※1 玉川学園、南大谷は東京都から施設を借用しているため、減価償却費を計上していません。

※2 南町田は民設民営の子どもクラブであるため、減価償却費を計上していません。



2 施設配置図



3 2023年度決算で掲げた施設マネジメント改善のための取り組み

短期的な取り組み(1～2年)	中長期的な取り組み(3～5年)
◆安全安心に利用でき、高い満足を得られる居場所の運営を行います。 ◆利用者アンケートや地域のニーズを踏まえ、地域の関係団体との連携を拡充します。 ◆事業や施設運営等において、子どもの参画事業を実施します。	◆職員の資質向上に努めることで、子どもとその保護者のための地域拠点として、安心して利用できる環境づくりを進めます。 ◆「子どもにやさしいまち」実現のため、事業や施設運営、地域支援等において、さらなる子どもの参画を推進します。

4 2024年度の取り組み状況

- ◆「夏祭り」や「開館記念行事」など地域と連携したイベントの実施や、SNSを活用した情報発信など利用者サービスの充実を図ったことにより、すべての施設で利用者数が増加しました。
- ◆民間事業者のノウハウを活かした運営により、利用者満足度はすべての施設で高い水準を維持しており、平均値は99%でした。
- ◆近隣の大学や子どもセンターなど地域の関係団体と連携をしながら、共催行事を実施しました。
- ◆子どもたち自らイベントの企画立案などを行う「子どもクラブ委員会」に継続して取り組み、子どもの参画を推進しました。
- ◆職員の資質向上を図るため、子どもセンターと合同で、児童館関連の法律知識を習得する研修を実施し、安心して利用できる環境づくりを進めました。

5 事業の成果の年次推移

各施設利用者数

(単位:人)

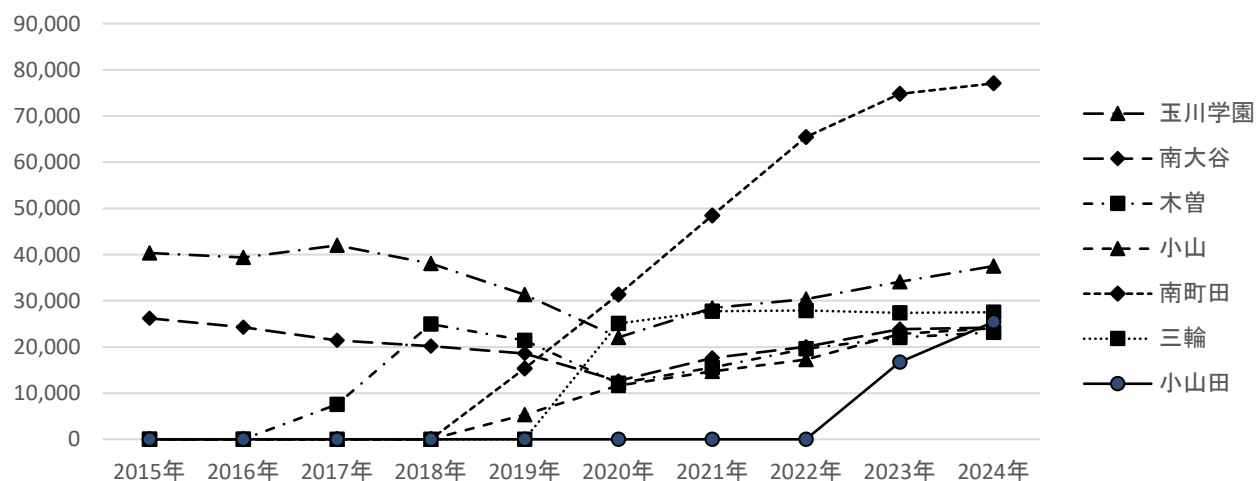
施設名称	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	計
玉川学園	40,330	39,346	41,979	38,046	31,356	22,074	28,412	30,387	34,106	37,512	343,548
南大谷	26,199	24,293	21,453	20,165	18,587	12,649	17,590	20,067	23,814	24,215	209,032
木曽	-	-	7,583	24,937	21,412	12,160	15,562	19,609	22,074	23,156	146,493
小山	-	-	-	-	5,326	11,680	14,721	17,297	22,823	24,062	95,909
南町田	-	-	-	-	15,354	31,345	48,483	65,411	74,795	77,054	312,442
三輪	-	-	-	-	-	25,109	27,748	27,887	27,365	27,517	135,626
小山田	-	-	-	-	-	-	-	-	16,700	25,409	42,109
計	66,529	63,639	71,015	83,148	92,035	115,017	152,516	180,658	221,677	238,925	1,285,159

対前年度比率

(単位:%)

施設名称	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
玉川学園	-	97.6%	106.7%	90.6%	82.4%	70.4%	128.7%	107.0%	112.2%	110.0%
南大谷	-	92.7%	88.3%	94.0%	92.2%	68.1%	139.1%	114.1%	118.7%	101.7%
木曽	-	-	-	328.9%	85.9%	56.8%	128.0%	126.0%	112.6%	104.9%
小山	-	-	-	-	-	219.3%	126.0%	117.5%	131.9%	105.4%
南町田	-	-	-	-	-	204.1%	154.7%	134.9%	114.3%	103.0%
三輪	-	-	-	-	-	-	110.5%	100.5%	98.1%	100.6%
小山田	-	-	-	-	-	-	-	-	-	152.1%

(人)



6 事業の成果の年次推移の分析

①推移の状況と要因

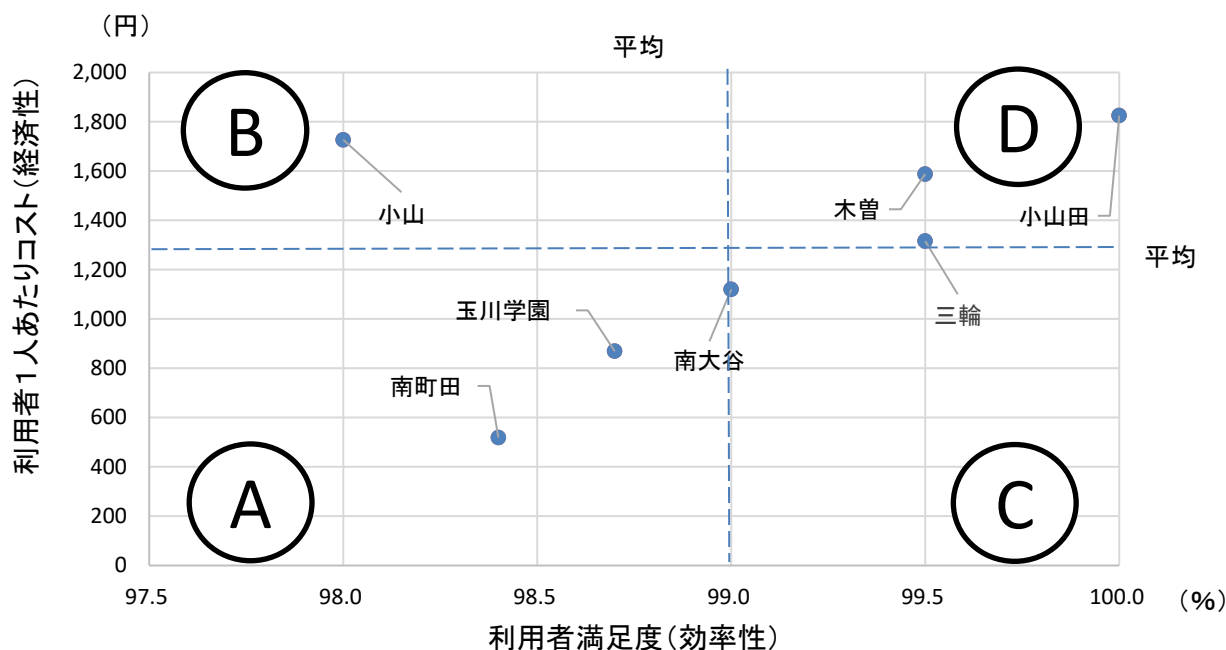
◆新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響はあったものの、2019年度に2館、2020年度に1館の子どもクラブを新たに開館したことなどにより、2017年度以降、利用者数としては増加し続けています。2023年度から7館体制となり、2024年度は過去最高となる238,925人の方にご利用いただき、2023年度に比べて17,248人増加(+7.8%)しました。

②①を踏まえた今後の取り組み

◆新たに2025年度に1館、2028年度に1館の開館を予定しているため、さらなる利用者の増加が見込まれます。開館するクラブに関しては地域と連携しながら、利用者の定着を目指します。

◆全体の取り組みとしては、地域のニーズを踏まえた利用者サービスの充実を図り、利用者満足度の向上や利用者数の増加に努めます。

7 効率性・経済性を軸にした分析グラフ



8 分析欄

①縦軸(経済性)の分析

◆南町田(519円)は、利用者が77,054人と全施設で一番多く、南町田グランベリーパークを訪れた方の利用の影響があったと考えます。

◆全体として利用者は増加傾向にあります。

◆2023年度に開館した小山田は、価格高騰の影響から建設時にかかった費用が高いため、減価償却費も他施設に比べて高くなり、利用者1人あたりのコストも高くなっています。

②横軸(効率性)の分析

◆いずれの施設も高い水準となっています。今後も、地域団体と連携した取り組みや出張児童館などのアウトリーチ活動を継続して実施することで、利用者満足度の維持に努めます。

9 分析を踏まえた事業の課題

◆子どもクラブ整備を着実に進める必要があります。

◆地域のニーズを踏まえた施設運営や地域と連携したイベントの実施により、利用者満足度の向上や利用者数の増加に努める必要があります。

10 施設マネジメント改善のための今後の取り組み

短期的な取り組み(1～2年)	中長期的な取り組み(3～5年)
◆安全安心に利用でき、高い満足を得られる居場所の運営を行います。 ◆利用者アンケートや地域のニーズを踏まえ、地域の関係団体と連携した施設運営を行います。 ◆子どもクラブの整備を進めます。	◆職員の資質向上に努めることで、子どもとその保護者のための地域拠点として、安心して利用できる環境づくりを進めます。 ◆「子どもにやさしいまち」実現のため、事業や施設運営、地域支援等において、さらなる子どもの参画を推進します。

同種施設比較分析表(図書館)

1 各施設の情報

		中央	さるびあ	鶴川※1	金森※1	忠生※2※3	木曽山崎	堺※2	鶴川駅前※2
基本情報	該当ページ	142	144	146	148	150	152	154	156
	建設年月日	1990年4月16日	1972年5月22日	1972年2月15日	2000年7月4日	2015年2月27日	1976年3月25日	1983年9月25日	2012年8月31日
	有形固定資産減価償却率	68.6%	75.9%	—	—	—	68.3%	—	—

行政費用(千円)	人件費	384,444	103,561	44,638	82,152	69,089	45,451	59,766	2,342
	物件費	174,597	50,027	14,986	53,960	45,327	19,251	21,275	143,251
	うち委託料	101,290	30,091	4,052	28,545	23,996	8,120	10,673	125,622
	うち光熱水費	16,501	5,434	1,058	4,116	2,102	1,623	1,043	—
	維持補修費	3,774	1,524	2,659	31,221	0	1,387	83	1,300
	補助費等	54,543	17	163	10	10	7	10	56
	減価償却費	34,830	1,806			15,057	3,177	6,176	19,422
	賞与・退職手当引当金繰入額	79,660	10,425	4,133	9,203	7,075	4,095	6,138	503
	行政費用合計	731,848	167,360	66,579	176,546	136,558	73,368	93,448	166,874

単位あたりコスト分析	延床面積(㎡)	5,968	1,318	260	1,500	1,229	320	430	1,332
	1㎡あたりコスト(円)	122,629	126,980	256,073	117,697	111,113	229,275	217,321	125,281
	貸出者数(人)	264,858	77,030	35,045	147,371	92,039	52,616	31,904	135,751
	貸出者1人あたりコスト(円)	2,763	2,173	1,900	1,198	1,484	1,394	2,929	1,229
	開館日数(日)	285	285	279	285	285	285	269	316
	開館1日あたりコスト(円)	2,567,888	587,228	238,634	619,460	479,151	257,432	347,390	528,082
	貸出点数(点)	762,815	273,798	102,372	539,548	382,306	159,661	136,397	391,689
	貸出1点あたりコスト(円)	959	611	650	327	357	460	685	426

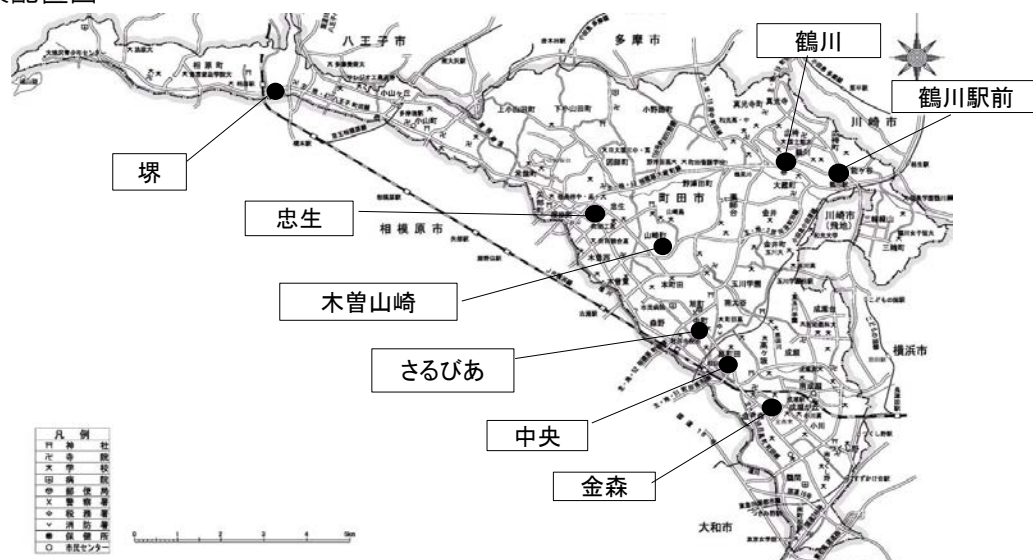
※1 施設をURから有償で借りて運営している鶴川、東京都から無償で借りて運営している金森については、減価償却費を計上していません。

※2 複合施設については減価償却費を面積按分して算出しています。有形固定資産減価償却率を空欄にしています。

	忠生	堺	鶴川駅前
減価償却費(千円)	53,871	41,125	87,181
複合施設全体面積(㎡)	4,687	2,863	5,979
図書館面積(㎡)	1,229	430	1,332
按分減価償却費(千円)	14,126	6,176	19,422

※3 忠生図書館の減価償却費は、建物減価償却費14,126千円及び重要物品減価償却費931千円を合算して15,057千円としています。

2 施設配置図



3 2023年度決算で掲げた施設マネジメント改善のための取り組み

<短期的な取り組みとして>

- ・鶴川図書館の図書コミュニティ施設への転換に向けた準備を進めます。
- ・若者からの提案による図書館でのイベントの実現に向けて取り組み、電子書籍サービスでは学校との連携を継続し、児童・生徒の読書活動の支援を行います。
- ・図書館システム更改を実施し、利用者の利便性を高めます。

<中長期的な取り組みとして>

- ・「町田市教育プラン24-28」に掲げた子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。また、さるびあ図書館と中央図書館の集約方法の決定に向けて、地域との意見交換を進めます。

4 事業の成果の年次推移

各施設利用人数

(単位:人)

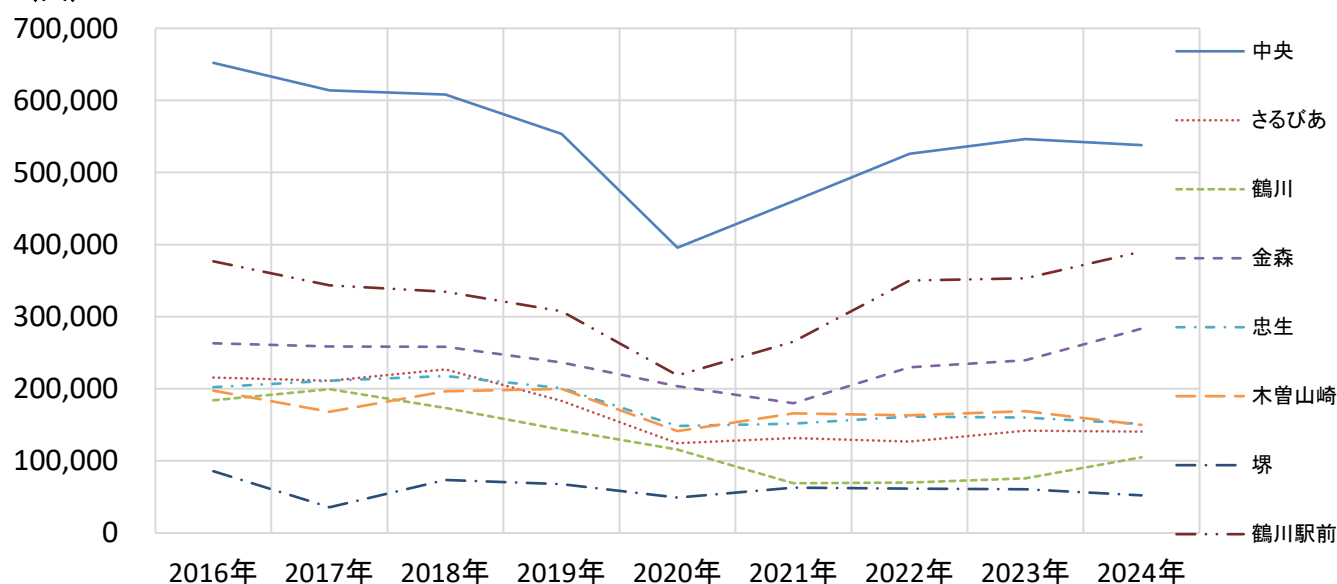
施設名称	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	計
中央	-	652,053	613,940	608,275	553,290	395,769	460,293	526,063	546,529	538,159	4,894,371
さるびあ	-	215,739	211,204	226,922	183,144	124,522	131,462	126,860	141,863	140,581	1,502,297
鶴川	-	184,052	199,442	173,545	143,373	115,801	68,995	69,794	75,574	105,137	1,135,713
金森	-	263,278	258,845	258,351	236,446	203,724	179,945	229,659	239,392	283,405	2,153,045
忠生	-	202,471	211,263	217,757	200,851	148,402	151,719	161,560	159,880	151,201	1,605,104
木曽山崎	-	197,516	168,224	196,371	199,870	141,259	165,898	163,306	169,078	150,066	1,551,588
堺	-	85,684	35,666	73,589	67,791	49,028	62,697	61,569	60,697	52,373	549,094
鶴川駅前	-	376,665	343,326	334,522	307,459	218,610	265,508	350,194	353,399	390,270	2,939,953
計	0	2,177,458	2,041,910	2,089,332	1,892,224	1,397,115	1,486,517	1,689,005	1,746,412	1,811,192	16,331,165

対前年度比率

(単位:%)

施設名称	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
中央	-	-	94.2%	99.1%	91.0%	71.5%	116.3%	114.3%	103.9%	98.5%
さるびあ	-	-	97.9%	107.4%	80.7%	68.0%	105.6%	96.5%	111.8%	99.1%
鶴川	-	-	108.4%	87.0%	82.6%	80.8%	59.6%	101.2%	108.3%	139.1%
金森	-	-	98.3%	99.8%	91.5%	86.2%	88.3%	127.6%	104.2%	118.4%
忠生	-	-	104.3%	103.1%	92.2%	73.9%	102.2%	106.5%	99.0%	94.6%
木曽山崎	-	-	85.2%	116.7%	101.8%	70.7%	117.4%	98.4%	103.5%	88.8%
堺	-	-	41.6%	206.3%	92.1%	72.3%	127.9%	98.2%	98.6%	86.3%
鶴川駅前	-	-	91.1%	97.4%	91.9%	71.1%	121.5%	131.9%	100.9%	110.4%

(人)



5 事業の成果の年次推移の分析

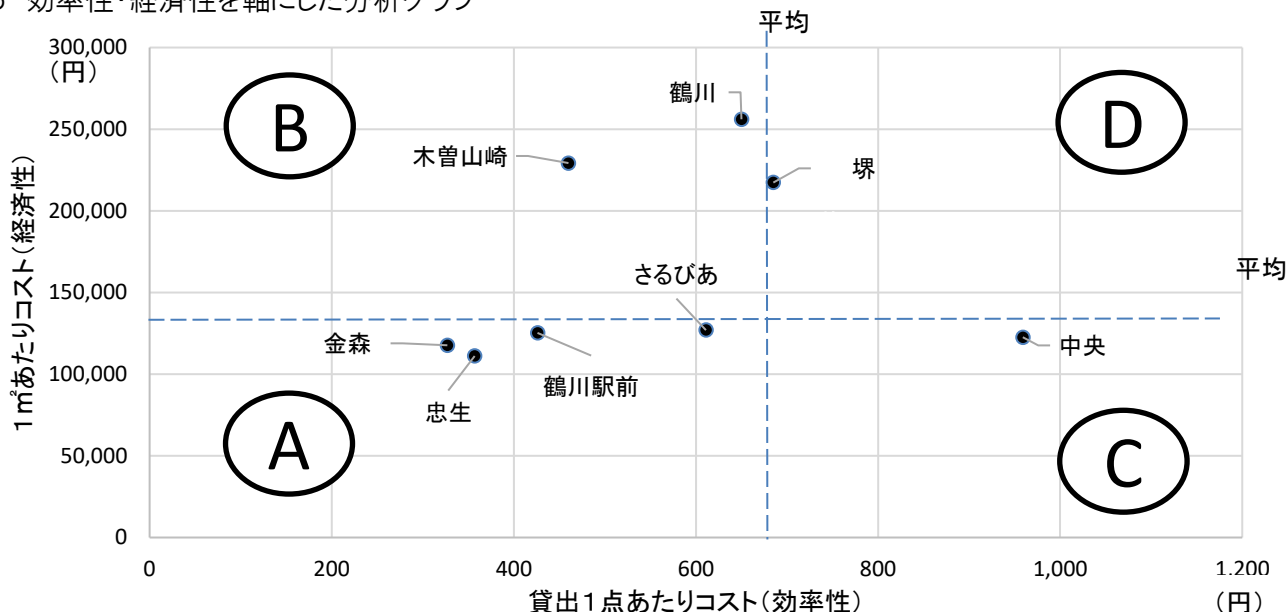
①推移の状況と要因

各施設利用人数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた2020年度まで減少していましたが、新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、2021年度以降は施設利用人数の回復がみられます。また、2024年度はシステム更改で約1ヶ月休館しましたが、各館がそれぞれ講座や体験等のイベントを実施したり、おはなし会を開催して事業に取り組んだ結果、施設利用人数は2023年度よりも64,780人増加しています。

②①を踏まえた今後の取り組み

「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進することによって、来館者数の増加に努めます。

6 効率性・経済性を軸にした分析グラフ



7 分析欄

①人件費の特徴について

・中央図書館、中規模館(さるびあ・金森・忠生・鶴川駅前)、小規模館(鶴川・木曽山崎・堺)の3グループで、それぞれ人員配置が異なるため、規模に応じた人件費を支出しています。中央図書館は他の図書館のバックアップに加え、レファレンス(参考調査)、視覚障がいのある方への対面朗読や録音図書資料、来館困難者への宅配サービス、視聴覚資料等の独自サービスを行い、人員を最も多く配置しているため、人件費が高くなっています。さるびあ図書館と堺図書館は移動図書館を運営しており、他の同規模館より人員を多く配置しているため、人件費が高くなっています。

②施設規模の特徴について

・施設運営に最低限必要な人員を配置しているため、小規模館は、1㎡あたりコストが中央図書館や中規模館よりも相対的に高くなっています(B区分)。

③貸出点数の特徴について

・中央図書館に次ぐ貸出点数がある金森図書館は、貸出1点あたりコストが最も低くなっています。また、移動図書館を運営している、さるびあ図書館と堺図書館は、他の同規模館より貸出1点あたりコストが高くなっています。

8 施設マネジメント改善のための今後の取り組み

<短期的な取り組みとして>

- ・学校との連携を継続し、電子書籍サービスの利用促進や新図書館システム機能をPRし、新規利用の増加を目指します。
- ・つるかわ図書コミュニティ施設「つるぼん」の運営支援を継続します。
- ・図書館プランナーの提案されるイベントの実現を推進します。
- ・地域の意見を踏まえ、さるびあ図書館の中央図書館への統合に向けて、移動図書館や学校図書館支援貸出などの機能再編方法を決定します。

<中長期的な取り組みとして>

- ・「町田市教育プラン24-28」に掲げた子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。